

### NPOの視点と柔軟性を生かしたまちづくり

行政とは異なる視点で柔軟に活動できるのが、NPO・ボランティアの魅力の一つでもあります。ここでは「道」と「アート」をテーマにした団体を紹介します。

#### 鴻臚館く大宰府市民参加の古代官道調査



岡部事務局長

奈良・平安時代に大陸との外交や軍事面を担った「大宰府政庁」と、海外使節の迎賓館「鴻臚館」を結ぶ道、「古代官道」をテーマに活動している団体がある。

#### アートで、人と社会をつなぐ



代表の古賀さん

「縁遠いものと思われがちな演劇や音楽、美術などのアート(芸術文化)を身近に楽しめるよう、アートのつくり手、受け手、支え手をつなぐ活動をしています。アートにはあらゆる領域で社会に与える力があるんです。その力を生かせる仕組みや、芸術と社会を取り持つ環境をつくること

が目的です」と話すのは、アートサポートふくおかの代表・古賀弥生さん(45)。「例えば高齢者が公民館で仲間と歌うことで健康を維持する、職場研修で上司と部下役を入れ替った芝居をしてコミュニケーションに役立てるなど、アートは鑑賞するだけでなく体験するものなんです」。



演劇を体験するワークショップ

平成14年の設立から、まず重点を置いた活動は子どもたちを対象にした芸術体験。プロの芸術家を小中学校に派遣し、演劇やダンス、合唱などの体験型ワークショップを行ってきました。この活動がきっかけとな

ユニティ創生支援モデル事業」に認可されています。「これまでの調査で、大宰府政庁から鴻臚館を結ぶ幅約12kmの直線道路の形跡が、高宮(南区)や水城(太宰府市)などから発見されています。現代は福岡市・春日市・太宰府市・大野城市などの自治体に分かれています。NPOだから自治体の垣根なく活動できる。そして参加者が実際に歩いて歴史遺産に触れ、まちづくりに役立てることが目的です」と、岡部定一郎事務局長(78)。

11月には、約50人の参加者が太宰府や野間(南区)付近を歩きました。「両団体には参加者との町歩きの実践や、歴史遺跡説明のノウハウがそれぞれにある。



11月のまちあるき、南区・野間八幡宮で

2団体で一緒に活動すると、お互いの秀でた部分が相乗効果を生み出します」と岡部事務局長は続けました。今後も、フォーラムや町歩きのイベントが予定されています。

【問合せ先】市民参加の古代官道調査活用事業実行委員会(☎716・8238⑧716・8254 ホームページhttp://kodaikando.yok-a-yoka.jp/)

### 寄付という形のボランティア 市NPO活動支援基金

ボランティアや社会貢献活動にはさまざまな種類・形態がありますが、必ずしも自分が動かないとできないものばかりではありません。活動に必要な資金を寄付することも、社会貢献のひとつの形です。

市は、寄付金を活用してNPO法人の活動を支援し、活動しやすい環境づくりを進めるため、「市NPO活動支援基金」(愛称…あすみん夢ファンド)を設立しています。

この基金を基にした今年度の市NPO活動推進補助金総額は50万円で、8月に15団体による公開プレゼンテーションが行われ、次の3事業に決まりました。

●「女性と子どものためのシェルター(一時避難所)による体験型ワークショップを依頼できる冊子」「アーティスト・カタログ」を2年おきに制作し、市内の小中学校や養護学校、公民館などに配布、年々依頼数は増えています。

最近では市文化芸術振興財団の職員と、芸術と子どもをつなぐ仕組みづくりを研究したり、滋賀県や横浜市のNPOと連携したり、活動の幅を広げています。

【問合せ先】アートサポートふくおか(☎090・7462・1657⑨591・6517 ホームページwww.as-fuk.com)

### 不要になった入れ歯をNPO法人の活動資金に!

市は4月から、「不要入れ歯回収ボックス」を設置し、リサイクル資源である金属が使われている入れ歯を回収しています。これはNPO法人日本入れ歯リサイクル協会の活動に協力するものです。市内で得られた収益は40%を日本ユニセフ協会に、20%を日本入れ歯リサイクル協会に、そして残りの40%を市NPO活動支援基金に充当します。

これまで4~7月の4か月間で、市内で得られた回収収益は約16万円、市NPO活動支援基金には6万4千円が提供されました。不要入れ歯は郵送でも回収しています。

■回収ボックス設置場所:市役所1階、各区役所、市NPO・ボランティア交流センターあすみんなど  
■郵送先:〒810-8620(住所不要) 市民公益活動推進課



### 市長の日記

九州場所を訪れた大相撲の親方から、興味深い話を聞きました。最近の若い力士は「すぐに口で呼吸をする」といいます。通常人間は鼻から空気を吸い込み、いわゆる息が上がるとハイハイと口でも呼吸をするわけですが、親方は「激しいけいこになる前から口呼吸が目立つ」と指摘します。食生活の変化や小さいころからの運動量など、何か原因はあるのでしょうか。お医者さんたちにも同様の意見の人がいるようです。

さらに親方は和式トイレの重要性にも着目していて、「洋式トイレの普及が日本人の股関節を固くした」との見立てです。蹲踞(対戦前の腰を下ろした姿勢)や股割りの「専門家」ですから説得力があります。相撲部屋という限られた世界での定点観測。プロの目は社会変化も見据えていて勉強になりましたけれど、今から和式トイレに戻るかと私にはちょっと自信ないです。

福岡市長 吉田 宏

11月28日、東区志賀島でふたば幼稚園環境委員会「ふたばっ子クラブ」の皆さんと懇談しました。同クラブは地域のごみ拾いや、給食から出る生ゴミを堆肥にして野菜を育て食すなど、食・農・環境・命をつなぐ循環型社会を目指し活動しています。

参加者からは「自然豊かな志賀島で子どもとお年寄りが抱える普遍的な子育ての問題を聞くことができたい」と語りました。

【問合せ先】広聴課(☎711・4067⑦733・5580 メールkocho.MO@city.fukuoka.jp)



リラックスした雰囲気、活発な意見交換が行われました

聞きたかけん 第14回 平成20年度